

会 議 事 録

1 会議名	令和元年度第1回長岡市公立大学法人評価委員会
2 開催日時	令和元年5月29日（水）午前11時00分から正午まで
3 開催場所	アオーレ長岡 アリーナ3階会議室
4 出席者名	<p>（委員）中村委員長 山崎委員 草間委員 高橋委員</p> <p>（説明のために出席した関係者）</p> <p>公立大学法人長岡造形大学 水流理事長 公立大学法人長岡造形大学 和田学長 公立大学法人長岡造形大学 河村副理事長 公立大学法人長岡造形大学 久島事務局長 公立大学法人長岡造形大学 中村企画調査室長 公立大学法人長岡造形大学 五十嵐企画調査室主任 公立大学法人長岡造形大学 野上財務課長 公立大学法人長岡造形大学 佐藤財務課主任</p> <p>（事務局）長岡市地方創生推進部 渡邊部長 長岡市政策企画課 大矢課長 長岡市政策企画課 河上課長補佐 長岡市政策企画課 林係長 長岡市政策企画課 吉原主任</p>
5 欠席者名	榎委員
6 議事	第2期中期目標（素案）について
7 審議結果の概要	第2期中期目標（素案）について、各委員から発言があり、今後の素案づくりに反映させることとなった。

8 審議の内容	
事務局・政策企画課課長補佐	<p>本日は、お忙しいところお集まりいただき誠にありがとうございます。ただいまから、令和元年度第1回長岡市公立大学法人評価委員会を開催いたします。</p> <p>それでは、はじめに、渡邊地方創生推進部長からご挨拶いたします。</p> <p>(渡邊部長挨拶)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>本日の評価委員会は、榎委員がご都合によりご欠席となっておりますが、委員5名のうち4名が出席されておりますので、長岡市公立大学法人評価委員会条例第5条第3項の規定を満たしていることをご報告いたします。</p> <p>なお、この度の評価委員会は長岡造形大学から水流理事長、和田学長、河村副理事長、久島事務局長のほか4名の事務局職員の皆様から出席いただいております。</p>
委員長	<p>それでは、議事の進行を中村委員長にお願いしたいと思います。中村委員長よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、進行を務めさせていただきます。</p> <p>まず最初に、今回の評価委員会の議事録署名人を決めたいと思います。草間委員と山崎委員のお二人にお願いしたいと思いますと考えておりますが、いかがでしょうか。</p> <p>(草間委員、山崎委員了解)</p>
委員長	<p>それでは、議事を進めてまいります。</p> <p>今回の議事は1件でありますけれども、第2期中期目標素案について各委員ご意見を伺いたしたいと思います。</p> <p>一番最初に、事務局からご説明を、ただきたいと思います。</p> <p>(資料を基に説明：大矢政策企画課長 約10分)</p> <p>それでは、第2期中期目標素案について各委員様からご意見をいた</p>

事務局・政策企画課課長	<p>だきたいと思いますが、本日ご欠席された槇委員からご意見が届いていますので、報告をお願いします。</p> <p>2点について、ご報告させていただきます。方針に掲げられている2つのポイントにつきましては、目標と合致していると思う。方針は非常に良い、ということ。それから、最も大切なのは、造形大学として、デザイン学を極めていくこと。公立大学であっても、最先端の研究を国際的視野で実施していくことが肝要。講師陣のさらなる充実と研究施設の充実を図っていくべきであると思うということです。</p> <p>以上です。</p>
委員長	<p>皆様いかがでしょうか。</p>
委員	<p>市内在住の高校生等の受け入れについて、これから中期計画を作成すると思いますが、現時点で具体的な案はあるでしょうか。</p>
長岡造形大学・水流理事長	<p>基本的には、これから中期計画を定める中で具体化していきます。今、10名の優先枠があります。ただし、ただその枠を多くするだけではなく、高校生や教員に長岡造形大学がどんな大学かを理解してもらうことが大切だと考えている。具体的にはこれからですが、そういったPRもしていきたいと考えています。</p>
委員	<p>これからのことですが、理念をどう具体化していくかが問題となると思います。</p> <p>国際的な視野ということで、国際的な発表の場に参加するということがありますが、留学生の派遣や受け入れについて具体的な計画があるのでしょうか。それから、学生がいろいろなデザインを考える時には、個人の体験が影響してくると思いますが、その時には学内にとどまらず地域に出て行っていろいろな人や企業とかかわるのが大事だと思うが、具体的な取り組みについて考えておられるでしょうか。</p> <p>またもう一点、財務内容のところ、外部資金の獲得について積極的に取り組むとありますが、具体的にはお考えがあるのでしょうか。</p>
長岡造形大学・和田学長	<p>国際化についてですが、今年も3名ハワイ大学に派遣しています。国際交流ということについて、学生にも徐々に普及してきていて、協定締結校に留学したいという学生は増えています。</p>

<p>長岡造形大学・ 水流理事長</p>	<p>2点目についてですが、授業でいうと地域協創演習など、地域や企業と一緒に課題の解決に取り組んできました。第2期ではNaDeC構想が本格化してくるため、さらに充実した、学外の人たちとチームを組んでの活動を進めていきたいと考えます。</p> <p>またその時、教職員がそうした活動に時間を有効に使えるよう、包括的な取り組みもさらに必要と考えます。</p>
<p>長岡造形大学・ 和田学長</p>	<p>他大学の学生と触れることも重要です。学生には、留学したり休学したり視野を広げるように話していますが、外に出ない学生が多いので、おぜん立てをしてあげるようなことが必要です。</p> <p>外的資金ですが、基本的には競争資金、科研費ということになります。それ以外にも民間からもあります。特に新しく入った先生方は積極的にやっておられます。</p>
<p>長岡造形大学・ 水流理事長</p>	<p>自己資金を増やし、予算の充実には力を入れなければならないと思います。これまでデザイン系の教員は、科研費にチャレンジすることになじみが薄いと思います。ノウハウの蓄積がなければ、難しいものだと思います。ただ、新しい先生を中心にチャレンジしていく動きが出てきているので、期待したいと思います。</p> <p>企業と一緒にする共同研究があります。企業が出資するものです。この件数を伸ばしていきたいと思います。そのためには、地域課題の解決と一体で環境整備をしていかなければならないと思います。そして、教員に行ってもらうためには、教員へのメリットがなければなりません。現在は、法人に入ってきた研究費を一部還元していますが、もう少し教員にインセンティブを持たせられるように考えたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>「問題解決プロセス」というのは、これまでやってきたことだと思いますが、こういう考え方が重要であるという意味として理解して良いのか、改めて（課題に）出てきたということなのかをお聞きします。</p>
<p>長岡造形大学・ 和田学長</p>	<p>デザインの歴史で、当初は、カーバーリング、見えるところをデザインするという性質で、最終段階を担う仕事が多く、大学でも造形教育が中心でした。今の時代は、デザインには、皆が発見していないものを発見に行くことが求められるようになっていきます。デザイナー自</p>

<p>委員</p>	<p>身も問題を探しに行くという役割を求められるようになっていきます。造形をしないデザイナー、構想を立てるデザイナーも出てきます。昔は、「問題解決」でしたが、今は「問題発見」が最初にあります。</p> <p>日立製作所は、以前はデザイン部門がありましたが、今は多くのデザイナーが外に出て問題を見つけてくる、仕事を探してくるんです。デザインで受けた教育の、問題発見や、こう解決したらいいんじゃないかという根のところに適性があるのではないかと思います。そのような時代になっていると思います。</p> <p>外部からの資金を増やそうということですが、第1期中期計画では、研究の向上の部分に位置付けられており、高いレベルでチャレンジすることによって、能力をあげていくんだという観点であったと思っています。今後、計画を決めて進捗状況を議論するときに、こういった観点からやっていくのかによって、記載する場所が決まってくると思います。</p>
<p>長岡造形大学・ 河村副理事長</p>	<p>第1期も、研究の成果を求めるといことも、経営の視点から研究費そのものを外部から獲得するというのも入っていました。経営的な面と、研究の成果を高めていくためにそのインセンティブになるようなものにつなげていこうということ、あるいは、教育にもつなげていこうということです。目的としては一緒に、経営的な部分と教育の成果を高める両方があります。</p>
<p>委員</p>	<p>「収益事業」という表現があります。外部の資金と、収益事業を一緒にして良いのか、と思いました。今までは研究の方に力点をおいて評価してきていますので、そのあたりの考え方が変わってきたのでしょうか。</p>
<p>長岡造形大学・ 和田学長</p>	<p>大学として、個々の先生をサポートしていますが、外部資金が取れば先生も成果を発表できますし、良い相乗効果がでることになると思います。</p>
<p>長岡造形大学・ 水流理事長</p>	<p>収益事業は、例えば、こどもものづくり大学校のように入学金としてお金をいただいて、それでも応募者があるような事業を提供することにより収益とするものをやっていこうというものです。そのほかに、研究は、ただ自前でやるのではなく、外のお金を獲得しながら、それ</p>

	<p>を活用として研究成果を高めるようにつなげていこうというものです。今後は、外から評価を得ながら資金を獲得するというなかで、応募件数はどれくらいか、認可された事業数はどれくらいかというような視点を大学側も、教員側も持っていくようになると思います。</p>
<p>委員</p>	<p>「2 教育の実施体制に関する目標」で、第 1 期にはなかった「(4) 教育研究組織の見直し」をあえてここに掲げた意図は何でしょうか。</p>
<p>長岡造形大学・ 和田学長</p>	<p>デザインの役割は刻々と変化しています。それに対応しなければ学生を集めることができない。また、それに対応した教育をしなければ、成果もあげられません。ただ、学部学科の改変などは 3~4 年くらいはかかるものなので、絶えず取り組まなければならないということです。</p>
<p>委員</p>	<p>組織の見直し、新しい学科の設置など思い切った手を打たなければ学生を集めることは難しいと思います。時間がかかるとは思いますが、ぜひやっていただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>学生への支援に関する部分です。学生が受診してくるケースがあります。自分から声が出せない学生もいるので、ケアに取り組んでほしいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>第 1 期中期目標では細かく書いてあったものが 1 つに統合されていたり、新しいものがあったりして、つかみにくいところもありました。</p> <p>今回の、一番の大きなポイントは、広義の意味でのデザインを、どういう風に造形大学として考えていくか、それをどう教育・研究に反映していくのかということだと思います。どういう項目、どういう視点から見れば良いかということに皆さん触れていたと思います。</p> <p>NaDeC 構想の部分では、NaDeC を造形大として活かしていくときに、(企業などと) コラボレーションしたところに課題があり、課題解決のためにはコラボレーションが必要なのだということが言えるか、ということにかかっていると思います。今後に期待したいと思います。</p> <p>書き方として、「問題発見・解決」の部分で、教育やカリキュラム、教員組織などの改革の中でどういう風に具体化していくのかというあたりがもう少しわかるといいと思います。表現自身をもう少し考えた方がいいだらうと思います。</p>

<p>事務局・政策企画 課課長補佐</p>	<p>それでは、時間になってしまいました。今日の議論を基に事務局で、第2期中期目標案の作成を進めてください。</p> <p>進行にご協力いただき、ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。</p> <p>中村委員長ありがとうございました。</p> <p>次第の3、その他としまして、次回の評価委員会について、事務局からご連絡いたします。</p> <p>(次回会議日程について説明)</p> <p>それでは、以上を持ちまして「令和元年度第1回長岡市公立大学法人評価委員会」を終了いたします。</p>
<p>上記議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名する。</p> <p>委 員</p> <p>委 員</p>	
<p>9 会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次第・出席者名簿 ○ 資料1 第2期中期目標の策定について ○ 資料2 第2期中期目標のポイントについて ○ 資料3 第2期中期目標案（新旧対照表） 	